

お知らせ

平成29年11月30日

■同時発表先：島根県政記者会、出雲市政記者クラブ、米子市政記者クラブ、松江市政記者クラブ、出雲ケーブルビジョン

大型水鳥類と共に生きる地域づくりについて 未来を語り合います。

～「ラムサールシンポジウム パネルディスカッション」の開催について～

今年の冬も、マガンやハクチョウなど、多くの冬鳥がやってくる季節となりました。また、雲南市周辺では、昨年から国の特別天然記念物『コウノトリ』も定着してくれているようです。

この地域にお住まいの皆さまには当たり前のように感じられる冬鳥が中海や宍道湖の水面に浮かび、周辺の田畑でエサをついばむ姿を日常的に目にできる光景は、全国的には非常にまれで、貴重な環境なのです。

このような、今まであまり意識してこなかった『豊か』で『魅力ある』自然環境を地域の皆さま方に再認識していただく機会として、この度、ラムサールシンポジウムの開催（主催：島根県・鳥取県）に合わせ、「大型水鳥類と共に生きる地域づくり」をテーマとしたパネルディスカッションを開催します。

斐伊川水系に飛来する希少な大型水鳥類をシンボルとした地域づくりについての熱い議論を、是非とも会場にご来場いただき、お聞き下さい。

【開催概要】

- ◆日時：平成29年12月9日（土）13：30～17：00
（パネルディスカッション 16：00～17：00）
- ◆会場：松江テルサ テルサホール
- ◆内容：別紙1参照

※参考

「生態系ネットワークによる大型水鳥類と共に生きる流域づくり検討協議会」の取り組み概要については別紙2をご参照ください。

過去の協議会資料等詳細は出雲河川事務所webサイトに掲載
(<http://www.cgr.mlit.go.jp/izumokasen/iinkai/ryuiki/index.html>)

<問い合わせ先>

■国土交通省 中国地方整備局 出雲河川事務所

副所長（技）

にしお まさひろ
西尾 正博

【担当】計画課長

こたに てつや
小谷 哲也

0853-20-1761（直通）



島根県・鳥取県連携事業

ラムサール条約登録湿地 中海・宍道湖

ラムサールシンポジウム


**入場
無料**
場所
松江テルサ テルサホール

松江市朝日町478-18 (JR松江駅前)

主催：島根県・鳥取県

共催：中海・宍道湖・大山圏域市長会

 斐伊川水系生態系ネットワークによる大型水鳥類と
共に生きる流域づくり検討協議会

平成29年

12 / 9 土

13:30～17:00

(開場: 13:00)

— 手話通訳有り —

内容

13:35～【活動発表①】

「コウノトリと共生するまちづくり」

～ラムサール条約湿地「円山川下流域・周辺水田」の取組～

井上 浩二 (兵庫県豊岡市役所 コウノトリ共生課 主査)

14:05～【活動発表②】

「中海・宍道湖、豊岡で活動する子どもたちの活動発表」

14:25～【活動発表③】

「中海での自然再生の取組とアジア湿地シンポジウムの報告」

國井 秀伸 (中海自然再生協議会会長)

15:00～【基調講演】

「鳥がもたらす経済効果 ～バードウォッチングツアーの現場から」

山本 幸正 (株式会社ワイバード代表取締役)

16:00～【パネルディスカッション】

「斐伊川水系における大型水鳥と共に生きる地域づくり」

【パネルディスカッション出演者】

コーディネーター 舟越幹洋 (山陰中央新報社 出雲総局長)

パネリスト 佐藤仁志 (公財 日本野鳥の会 副会長)

神谷 要 (米子水鳥公園 館長)

田邊達也 (出雲観光協会副会長 神門通り廻りの会代表)

奥森隆夫 (未来守りネットワーク 理事長)

山本幸正 (株式会社ワイバード 代表取締役)

お問合せ

島根県松江市殿町1番地

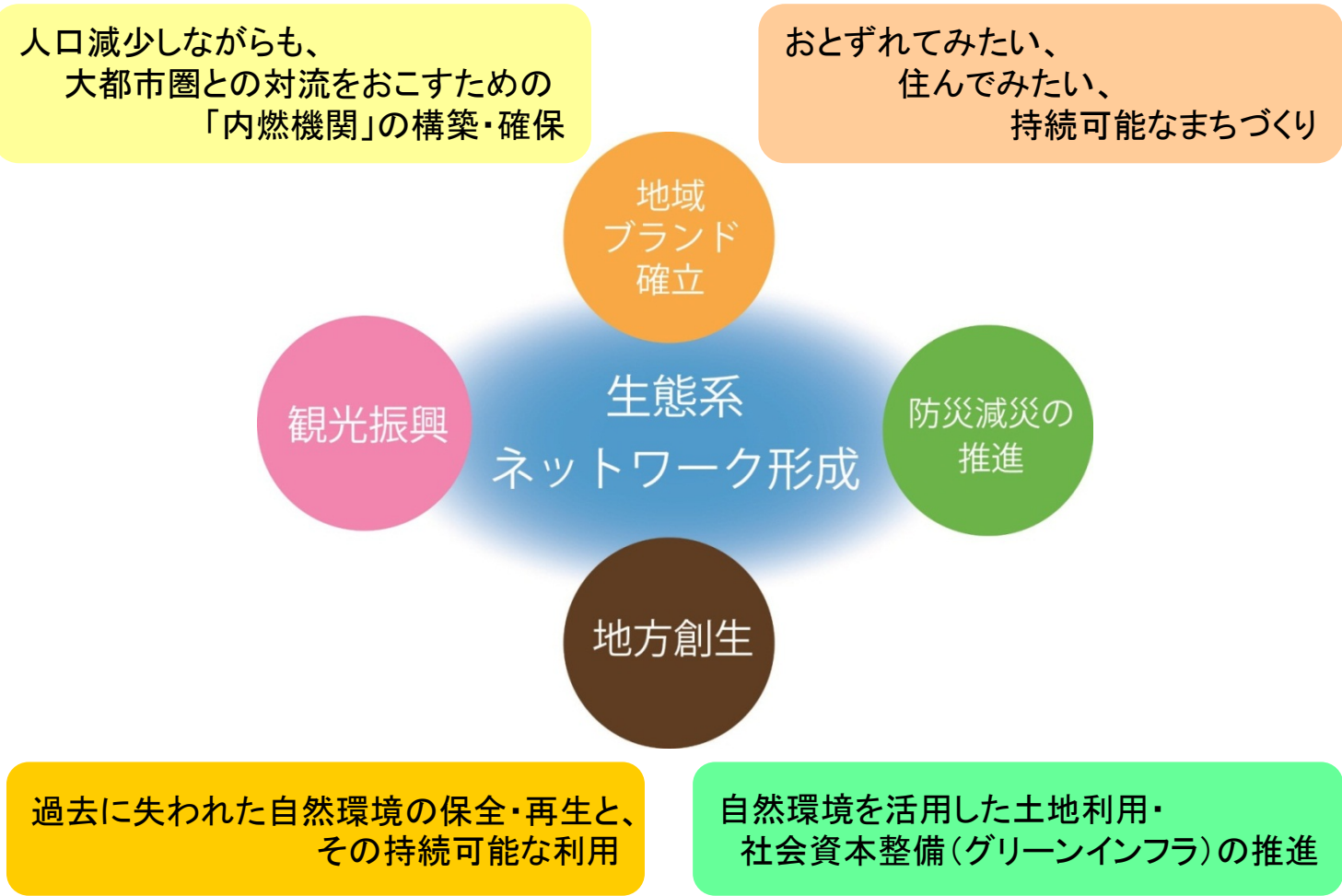
島根県環境政策課 宍道湖・中海対策推進室まで

TEL 0852-22-6445 FAX 0852-25-3830
E-mail kankyo@pref.shimane.lg.jp
**定員
350名**

○斐伊川水系は、宍道湖及び中海のラムサール条約登録湿地に象徴される、多くの大型水鳥類が集まる国際的評価の得られた豊かな水辺環境を有している。

○わが国の陸水域に生息する希少な大型水鳥類は、①ハクチョウ類 ②ガン類 ③ツル類 ④コウノトリ ⑤トキの5つに大別されるが、これら全てが安定的に生息可能となる潜在性を持つ地域は、斐伊川水系が国内唯一である。

○これら大型水鳥類を指標とした、水辺環境の保全・再生と地域経済の活性化が両立した生態系ネットワークの形成を目指している。



斐伊川に飛来したハクチョウ、ガン
佐藤仁志(公財)日本野鳥の会理事長



斐伊川に飛来したハクチョウ、ガン
佐藤仁志(公財)日本野鳥の会理事長

5つの大型水鳥類が生息できる日本で唯一の地域「斐伊川水系」

日本に生息する希少な大型の水鳥類は、主に5つにわけられます。

- ① ハクチョウ類
- ② ガン類
- ③ ツル類
- ④ コウノトリ
- ⑤ トキ

斐伊川水系 <ひいかわすいけい> には・・・

- ① ハクチョウ類 ② ガン類 ③ ツル類 …毎年冬に飛来します。
- ④ コウノトリ …飛来もたびたび目撃されています。
- ⑤ トキ …かつて生息していました。



斐伊川水系には日本で唯一、これら5つの大型水鳥類が安定的に生息するポテンシャルがあります。これらの大型水鳥類がくらするように、環境づくりを進めていきます。

国際的に重要な湿地である宍道湖・中海を中核として、大型水鳥類を指標とした自然環境の保全・再生と地域経済の活性化が両立した生態系ネットワークの形成を目指します

大型鳥類を指標とするメリット

1 自然と調和した多様な環境が一体的に存在することの象徴

大型水鳥類の多くは、まとまった良好な水辺を広範囲に移動して生息・繁殖・越冬する習性をもつことから、行政界の枠を越えた広域レベルの水系ネットワークの指標として適した存在です。



2 色々な生きものがくらす環境の象徴

大型のガン類やハクチョウ類、ツル類が生息できる河川・湖沼やまとまりのある湿田や湿地は、小型の水鳥類をはじめ多くの生きものがくらすにける環境条件を有しています。



3 アピール性が高く、広く受け入れやすい

ハクチョウ類やコウノトリなどの白い鳥、ガン類など群れで行動する鳥は目にとまりやすく、取組の効果をアピールするのに適しています。

